

尻^{しっ}労^{かり}後^{しも}援^{きた}会^{のう}（下^{まい}北^{しっ}の能^{かり}舞^{こう}） （青森^{しも}県^{きた}下^{ひがし}北^{どおり}郡 東通村）



出演日時：10/31 10:55～ 演目：拾番切

能舞は、中世芸能の姿をよく残す典型的な修験能であり、鎌倉時代末にその骨格が形成されたといわれます。東通村には今から五百年以上前に修験者よりもたらされました。

曾我兄弟は、富士の裾野の巻狩りに乗じて、父の敵である、工藤佑経（くどうすけつね）を討ち果たします。しかし、兄の十郎は討たれ、弟の五郎も敵に囲まれ最後の奮戦、拾番切の大暴れの末に生け捕られます。「拾番切」はその奮戦を演じた演目で、能演目「夜討曾我（ようちそが）」と同じ場面を取り扱っています。